

食品照射を考える：鎖国状態から抜け出せるか？

日時：2016年7月8日(金)15:45～18:15

(第53回 アイソトープ・放射線研究発表会 最終日)

場所：東京大学弥生講堂アネックス セイホクギャラリー

(地下鉄南北線 東大前駅1分、東大農学部正門入ってすぐ左側)

申込：下記サイトから事前登録(6月6日受付開始) 先着50名

日本アイソトープ協会 <http://www.jrias.or.jp/seminar/cat4/506.html>

参加費：無料 (他のプログラムにも参加の場合は事前登録4,000円/当日登録5,000円)

○基調講演

- (1) 「食肉の生食嗜好に潜むリスクと牛レバーの生食可能性の検討」
厚生労働省・基準審査課 専門官 (乳肉水産係) 吉原尚樹氏
- (2) 食品照射：国内外の現状とこれからの課題
量研機構・高崎研・放射線生物応用研究部 小林泰彦氏

○パネル討論 (司会：食のコミュニケーション円卓会議 市川まりこ)

講演者2名

新井剛史氏 (厚労省基準審査課規格基準係専門官)

小暮実氏 (食品衛生監視員)

平沢裕子氏 (産経新聞記者)

食品への放射線照射は、香辛料・ハーブ類や冷凍食肉・魚介類の殺菌、熱帯果実や柑橘類の検疫処理(殺虫)など世界各国で実用化されています。肉の生食による食中毒の有効な対策の一つとして放射線殺菌技術への期待があるにもかかわらず、日本では、ジャガイモの照射芽止め以外は食品衛生法で禁止されたままとなっています。

食の安全に役立つ優れた技術が使えないことで失われてきた私たち消費者の利益。では、これから私たちが進むべき道は？

食品衛生と消費者利益を損ねている障害を取り払い、より良い日本の未来を拓くために、様々な立場の人々と一緒に考えてみたいと思います。

主催：食のコミュニケーション円卓会議 <http://food-entaku.org>

共催：公益社団法人日本アイソトープ協会 <http://www.jrias.or.jp/>
日本食品照射研究協議会 <http://www.jrafi.jp/>

問い合わせ：食のコミュニケーション円卓会議 Tel:090-9644-0008

E-mail: foodentaku@gmail.com